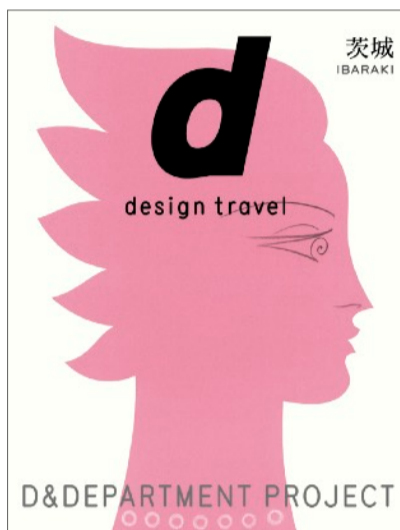


その土地の個性とらしさをデザイン目線で案内するガイドブック最新刊『d design travel 茨城』3/19(金)全国発売
東京・渋谷ヒカリエやオンラインでも。見て・買って・食べて・笑って… "茨城らしさ" を体験できる企画が盛りだくさん!

D&DEPARTMENT PROJECT (商号:ディアンドデパートメント株式会社) が制作する「ロングライフデザイン(その土地に長く続く個性)」を編集テーマに据えた、47都道府県の観光を1県につき1冊ずつ特集する観光ガイドブックシリーズ『d design travel (ディデザイントラベル)』の29冊目となる「茨城号」が、2021年3月19日(金) 全国発売となります。

発売に合わせ、展覧会や編集部によるトークショー、郷土食を味わう企画や落語会など、本書を立体的に楽しめる連動企画を東京の渋谷ヒカリエやオンラインなどで開催予定です。様々な体験を通して、茨城県の個性を伝えていきます。



『d design travel 茨城』のつくり方、たのしみ方

1、地元住民や、旅・デザイン好きの一般参加型による編集スタイル

昨年10月、公募で集まった参加者約40名で「茨城らしさ」をディスカッション。取材候補地を挙げる公開編集会議で制作をキックオフしました。その後もSNSやYouTubeで制作過程をシェアしながら、県内外からリアルタイムで情報を寄せていただきました。

2、まずはいち旅人として体験する、覆面取材

10月から12月まで約2ヶ月間、編集長が現地に住み込んで250箇所以上を訪れ、暮らすように県内を巡り、実際に体験し感動したものだけを選定。選定後に初めて取材申し込みを行いました。

3、“体験してこそ”の茨城号

東京・渋谷ヒカリエ「d47」やオンラインなどで、展覧会やトークショー、落語会など、本書だけに留まらない様々な企画を展開します。



みんなとつくる、“せかい”と“みらい”。

山も海も街も近く、関東平野を含む恵まれた立地は、農業や漁業、工業や芸術、観光や町おこし……茨城は、文化の多様性にも対応しながら、日本の“みらい”を考え、さまざまな研究成果を上げてきた。都会的なセンスも持ち合わせ、科学や技術の最前線を行く。みんなが暮らす、この“せかい”は、茨城からできている。

表紙『SEVEN PEARLS』ミック・イタヤ

つくばの「研究学園都市」にはじまり、茨城は、日本の最先端を駆け抜けてきた。それは、地球上の全てのことを考えた、これからの“未来人”のためでもある。茨城出身のアーティスト、ミック・イタヤさんの、美しくクールな作品は、どこか茨城への実直な“愛”を感じます。今回のために描き下ろしていただいたビジュアル（ピンクカラーVer.）は、「このご時世を華やかに」と、ミックさんの思いが込められています。未来の茨城は、こんなバラ色であってほしい。

『d design travel』編集長 神藤秀人

『d design travel 茨城』概要

- 定価 1,900円+税 / ● 出版元 D&DEPARTMENT PROJECT
- 発売日 2021年3月19日(金)
D&DEPARTMENT webサイトで予約受付中。2/26(金)よりd47及びD&DEPARTMENT各店ほかにて順次先行発売。
- 様式 B5変形判、192ページ、フルカラー、日英併記
- 販売場所 全国の書店・ライフスタイルショップ・ミュージアムショップ・Amazon・D&DEPARTMENT各店
- 表紙 『SEVEN PEARLS』ミック・イタヤ

茨城号特集webサイト：https://www.d-department.com/item/D_DESIGN_TRAVEL_IBARAKI.html

メディア関係者様向け提供画像ダウンロード：<https://bit.ly/3rstAPE>

—本件に関するお問い合わせ—

D&DEPARTMENT PROJECT 広報 清水 03-6427-2301 / pr@d-department.jp / www.d-department.com

● d design travel 編集、7つの考え方

1. 必ず自費でまず利用すること。実際に泊まり、食事し、買って、確かめること。
2. 感動しないものは取り上げないこと。本音で、自分の言葉で書くこと。
3. 問題があっても、素晴らしければ、問題を指摘しながら薦めること。
4. 取材相手の原稿チェックは、事実確認だけにとどめること。
5. ロングライフデザインの視点で、長く続くものだけを取り上げること。
6. 写真撮影は特殊レンズを使って誇張しない。ありのままを撮ること。
7. 取り上げた場所や人とは、発刊後も継続的に交流を持つこと。




※中面ページ例：dマークレビュー(画像は愛媛号より)

● 取材対象選定、5つの考え方


1. その土地らしいこと。
2. その土地の大切なメッセージを伝えていること。
3. その土地の人がやっていること。
4. 価格が手頃であること。
5. デザインの工夫があること。

● 主な内容：dマークレビュー


『d design travel』最大の見どころ。観光、レストラン、買い物、カフェ、宿、人、の6つのカテゴリーごとに最大4箇所ずつ厳選し、その土地を代表する、ロングライフなスポットや取り組みを掲載しています。

 その土地らしさを感じる観光スポットで、メッセージ性があり、長く続いている場所。

- 観光
- ・水戸芸術館（水戸市）
 - ・春風萬里荘（笠間市）
 - ・茨城県天心記念五浦美術館（北茨城市）
 - ・ゲルト・クナッパージャラリー（大子町）

 伝えたいメッセージを持つオーナーによる、その土地らしいカフェやバー。


- カフェ
- ・サザコーヒー 本店（ひたちなか市）
 - ・古河公方公園 ジェラテリア（古河市）
 - ・パンドムシヤムシヤ アンド コーヒー（笠間市）
 - ・Shingoster LIVING & cox（つくば市）

 地域の食材を使い、地元の人がやっていて、美味しいだけでなく、デザインを感じる食事処。


- レストラン
- ・慈久庵（常陸太田市）
 - ・トラットリア・アグレステ（石岡市）
 - ・kokyū.（結城市）
 - ・山文魚（日立市）

 その土地らしさを体験できる建築やサービスによる宿泊施設で、価格も適正であるホテルや旅館。

- 宿
- ・里海邸 金波楼本邸（大洗町）
 - ・別邸 翠風荘 慶山（行方市）
 - ・古民家 江口屋（かすみがうら市）
 - ・ホテル日航つくば（つくば市）

 地域の特性を活かしたお土産を購入できる店。

- 買い物
- ・木内酒造 本店（那珂市）
 - ・つむぎの館（結城市）
 - ・回廊ギャラリー門（笠間市）
 - ・器而庵（大子町）

 地域のキーパーソンで、文化創造や地域活性に繋がる活動を積極的に行っている人物。

- 人
- ・飯野勝智・野口純一（結いプロジェクト）
 - ・唐澤秀（鹿嶋パラダイス）
 - ・江本珠理（up Tsukuba）
 - ・五嶋英門（水戸のキワマリ荘）

● 特集例

・茨城県のものづくりの話聞く～「ほしいも学校」の、予備校～

誰もが一度は食べたことのある庶民的なお菓子「干し芋」。茨城県は、その干し芋の日本一の生産地なのですが、改めて茨城の人に、干し芋について訊いてみると、意外にも答えられない。いつからあるものか、なぜできたのか。生産者の皆さん自身も曖昧だったとか……そんな、干し芋を勉強しようと、発足した活動が『ほしいも学校』。実際に“入学”する前に、予習しましょう。

・茨城県の産地を巡る旅～Kasama Pottery Town～

全国津々浦々、焼物の産地は数多く、それぞれの窯元には、土や釉薬、形や技法といった特徴がありますが、茨城県の笠間市に伝わる「笠間焼」は、一体どんな特徴があるのだろうか。“特徴がないのが特徴”なんて揶揄されることもあるそうですが……旅の中で出会った陶芸家の作品に触れながら、笠間焼の歴史を探ります。

・“茨城らしい活動”から学びたい～わかりやすい研究～

研究都市つくばには、筑波大学を筆頭に、たくさんの研究機関が点在しています。研究内容もナノレベルから宇宙規模まで、多種多様。言い換えれば超マニアック（笑）。そんな個性溢れる研究を、コワーキングスペース「up Tsukuba」の代表・江本珠理さんに、わかりやすくご紹介していただきました。バッタ、キリン、雲、AI、超電導……などなど、あなたの気になる研究はありますか？

● 連載

- ・深澤直人（プロダクトデザイナー） / デザイナーのゆっくりを聞きたい 第46回「Comfort zone」
- ・坂本大三郎（山伏） / 47都道府県にあるロングライフな祭り 第18回、茨城県「聖なる時間と祭り」
- ・高木崇雄（工藝風向 店主） / 47都道府県の“民藝” 第17回、茨城県「酒蔵、そして、クラフトビール」

その他、編集部が見つけたその土地では当たり前となっている独特な習慣を紹介する「茨城のふつう」や、「茨城定食」 開発から感じた県独自の食文化、滞在取材を経て見聞きし体験したその土地らしさを綴る「編集部日記」など、掲載地はおよそ75箇所。さまざまな切り口から“茨城らしさ”を伝えます。

● 連動企画

各企画の詳細やオンラインで楽しめるコンテンツは、随時webやSNSで発信していきます。また、この内容は、今後の社会情勢により変更となる場合があります。最新情報はwebサイトをご確認ください。

1. 本書を立体的に表現する展覧会「d design travel IBARAKI EXHIBITION」

掲載地で実際に使用されている仕事道具や備品、装飾品などを展示し、現地の魅力を再現する展覧会です。東京・渋谷ヒカリエのd47 MUSEUMにて、2月26日(金)-5月24日(月)まで開催。詳細はプレスリリース最終頁をご覧ください。

2. 郷土の味をぎゅっと詰め込んだオリジナルメニュー「茨城定食」が登場

d47食堂の料理人が茨城県を旅して、名物や伝統料理を食べ歩き、生産者に取材して開発した定食が、期間限定で登場。釜揚げシラウオがたっぷりのったご飯、蓮根の天ぷら、在来大豆の納豆、つと豆腐、けんちん汁、干し芋食べ比べ、などが並びます。

提供期間 2月16日(火)-5月24日(月) 予定 ※仕入れ状況などにより期間や内容は変更する場合があります。

価格 1,800円(税込) / 場所 d47食堂(渋谷ヒカリエ8F) / 電話 03-6427-2303

3. 茨城号制作の舞台裏と茨城の食を楽しむ「d design travel show」と「茨城を食べる会」

編集部が本書と連動企画にまつわる制作裏話を、取材時に撮りためた写真などを見せながら語りつくすトークショーと、茨城ならではの食やお酒をコース仕立てで堪能できる企画です。詳細はwebサイトで公開します。

東京開催 3月12日(金) 予定 / 場所 COURTおよびd47食堂(いずれも渋谷ヒカリエ8F)

4. 編集部の足取りをたどる「d編集部の茨城ぐるぐる」

本書掲載の「dマーク」各地に茨城号を持参すると、オリジナルスタンプが押せるスタンプラリーです。オリジナルの台紙は、茨城号の購入特典としてプレゼント(数量限定。無くなり次第終了)。台紙には、本書には収まり切らなかった情報が満載の、編集長による手書きの『らくがきMAP』も載っています。いつか実際に旅する時の楽しみの一つにと企画しました。

※スタンプ設置の有無は掲載地により異なります。詳細はwebで公開します。

5. 茨城県をテーマにした創作ご当地落語を披露「d47落語会 茨城県」

落語家・柳家花緑が、脚本家・藤井青銅書き下ろしの新作となる茨城落語を、洋服で椅子に座り現代の言葉で演じる「同時代落語」のスタイルで披露します。『d design travel』発行人のナガオカケンメイと編集長の神藤秀人を聞き手に、2人が茨城落語の誕生秘話を語るアフタートークと合わせて、茨城の魅力を笑いを通して感じられる企画です。オンラインでの配信も予定しています。詳細はwebサイトで公開します。

演目：古典落語1席、茨城落語1席、アフタートーク

d47落語会webサイト：https://www.d-department.com/item/D47_RAKUGO.html / 問合せ：03-6427-2301(d47)

その他にも、編集長が、旅と編集の舞台裏を振り返りながら、よそ者視点で茨城らしさをどのように見つけていったか、茨城にしかない魅力を再発見しながら旅する楽しさ、茨城号のおすすめの読み方などを伝える、オンライン配信やトークイベントなど、さまざま企画していきます。

● 『d design travel』とは

2009年創刊し、これまでに28都道府県を発刊。毎号、地域住民との公開編集会議を皮切りに、約2ヶ月間の現地取材を行います。各号の取材と、東京と特集県とで連動する企画を通して、47都道府県の独自の個性を改めて整理し発信することで、日本各地にあるその土地らしいクリエイションを見つめ直し、その価値を継承する意識を持つきっかけを与える、これまでのトラベルガイドには無い機能をもつ書籍として展開しています。

1.北海道、2.鹿児島、3.大阪、4.長野、5.静岡、6.栃木、7.山梨、8.東京、9.山口、10.沖縄、11.富山、12.佐賀、13.福岡、14.山形、15.大分、16.京都、17.滋賀、18.岐阜、19.愛知、20.奈良、21.埼玉、22.群馬、23.千葉、24.岩手、25.高知、26.香川、27.愛媛、28.岡山

※鹿児島と静岡は増補改定版を、東京は改訂版を、初版後それぞれ出版。

『d design travel 茨城』は、クラウドファンディングを実施しました。

このシリーズの本質は、単なる旅行ガイドではなく、旅を通して「地域で頑張っている企業やお店の姿を伝えていく」こと、そして「地域の“らしさ”や“個性”を守ろうと呼びかけていく」ことにあります。ただ資金を調達するだけの手段ではなく、ロングライフデザインを応援しようと同じ方向を目指す仲間とコミュニティをつくり繋いでいくことを目的として、本書の活動を必要とされている方々をサポートとして募り、2020/10/21(水)から2020/12/4(金)の期間で、のべ484人・総額5,310,500円のご支援をいただきました。詳しくは以下URLよりご覧ください。：<https://readyfor.jp/projects/d-ibaraki>

● D&DEPARTMENT PROJECT(ディアンドデパートメントプロジェクト)とは

2000年にデザイナーのナガオカケンメイによって創設された「ロングライフデザイン」をテーマとするストアスタイルの活動体。現在は国内外に10店舗(北海道、埼玉、東京、富山、京都、鹿児島、沖縄、韓国・ソウル、韓国・済州、中国・黄山)を展開。47都道府県に1か所ずつ拠点をつくりながら、全国的な規模で「息の長いその土地らしいデザイン」の発掘と紹介をしている。2009年『d design travel』創刊、2012年渋谷ヒカリエ8階に日本初の47都道府県のデザイン物産ミュージアム「d47 MUSEUM」をオープン。併設の「d47 design travel store」「d47食堂」と連動し、立体的に日本を伝える新しいスタイルを創造。物販、飲食、出版、観光を通して47の日本の“らしさ”を見直す活動を展開している。

茨城県の個性を「デザイン」と「旅」の視点から見る展覧会2/26(金)～5/24(月) 渋谷ヒカリエで開催



名称 d design travel IBARAKI EXHIBITION
 会期 2021年2月26日(金)～5月24日(月) 12時～20時 入館は19時30分まで ※水曜休
 会場 d47 MUSEUM (ディ ヨンナナ ミュージアム) 東京都渋谷区渋谷2-21-1渋谷ヒカリエ8階
 入場料 ドネーション形式(会場受付) / 主催 D&DEPARTMENT PROJECT 協力 いばらき県央地域観光協議会
 電話 03-6427-2301 (d47 MUSEUM) / URL www.d47museum.com

d47 MUSEUMでは、2月26日から5月24日まで「d design travel IBARAKI EXHIBITION」を開催します。デザイン目線で日本各地の長く続くその土地らしい個性を案内するトラベルガイドブック『d design travel 茨城』の3月19日(金)全国発売を記念し、誌面だけでは収まりきれない現地の魅力を立体的に伝えます。

編集部が徹底取材した“その土地らしさ”を、現地で実際に使用されている仕事道具や備品、装飾品などを展示し再現します。例えば、ゲルト・クナッパーギャラリーの作品、慈久庵の蕎麦の器、古河公方公園ジェラテリアのSANAAチェアなど、さまざまな展示を予定しています。誌面から飛び出したような数々の展示品の独自のデザインから、編集部が、歩き、見聞きし、食べた“茨城の今”を感じ取って、その魅力を再発見し、実際に茨城県を旅したくなるきっかけをつくります。

会場では全国発売に先駆け、茨城号を先行販売します。先着で、本書には収まり切らなかった情報が満載の、編集長による手書きの「らくがきMAP」をプレゼント。また、編集部おすすめの茨城の手土産が買える期間限定ストアが登場します。例えば、器而庵の太子漆の漆器や、鈴木環や船串篤司の焼物のほか、様々な作家による笠間焼、結城紬のショールといったプロダクトから、鹿嶋パラダイスが運営するパラダイスビアファクトリーのクラフトビール、木内酒造の常陸野ネストビールや日本酒や梅酒、サザコーヒのコーヒー各種、さし茶、在来豆を使ったグラノーラまで、そしてもちろん、多種ある納豆や干し芋など、美味しい手土産も購入できます。そして、本書で掲載するいばらき県央を特集した誌面と連動したコーナーも登場。編集部が感じた、いばらき県央エリアの“らしさ”の展示と関連商品の販売を行います。

併設のd47食堂の新メニュー「茨城定食」も合わせて、本を読み、展示を見て、商品を手にとり、郷土料理を食べ…と、茨城の魅力を五感を通して感じられる企画です。

会期中には、編集部が取材や展示の舞台裏を語るトークショーや、茨城の食が堪能できるイベント、茨城をテーマにした新作落語を披露する「d47落語会 茨城県」も開催予定です。展示だけに留まらず、様々な角度から茨城らしさを体験できる企画を開催していきます。企画詳細やオンラインで楽しめるコンテンツは随時webやSNSで発信していきます。

「d47 MUSEUM」は、2012年4月26日、渋谷ヒカリエ8階に、日本初の“47都道府県デザイン物産ミュージアム”としてオープン。建築、デザイン、工芸、食、ファッション、農業、自然環境など、あらゆるジャンルからテーマを選び、オリジナルのキュレーションと編集で、世界に向けて“日本の今”を発信していきます。

<参考> d design travel 編集部 YouTubeチャンネル <https://www.youtube.com/channel/UC7Zcv-XZPkNahdHxpZ5PCgg/videos>

視聴可能動画例

- ・茨城号、現地取材の様子ダイジェスト <https://youtu.be/gctd1RCwVGE>
- ・愛媛展の様子(昨年3/6-8/31まで開催)、編集長の音声ガイダンス付きで鑑賞できる動画
- ・愛媛号、編集長が制作裏や同書の見所を語る「ひとりでトラベルショー」動画

—本件に関するお問い合わせ—

D&DEPARTMENT PROJECT 広報 清水 Tel: 03-6427-2301 / pr@d-department.jp